〔一〕　昭和十六年一月二十九日　磐城毎日新聞　（水曜日）　第六千二十七號

（大正十四年四月二十二日第三種郵便物認可）

二十八日夕刊

磐城毎日新聞

□本紙一ヶ月　金六十錢
□郵送料　金十五錢
□一部　金三錢
□廣告料一行　金六十錢
□雜報欄　金九十錢
□場所指定一行　金一圓
□電話（呼）七八六番
□編集局　東京市田町十二番地
□販賣所　磐城毎日新聞社
發行編輯兼發行人　森合英

任期延長と議員の覺悟

武藏山人

國民の相コク靡擦を避け時艱を克服するの非常時体制を整ふべく政府は選擧法改正案の上程を見合せ、同時に代議士及府縣會、市町村會議員の改選を一ケ年間延期することに閣議の決定を見た。時宜に適した處置であつて吾人の心から賛意を表する處である。

◇

多くの議員中には「今年の改選を目標に永い間勢力伸長の運動を續けて來たのに、任期が一ケ年延長されては更に運動を一年間行なはねばならない」と間違ひの不平を洩す向も存者があり、或ひは任期延長を役徳の如く心得て自己の勢力運に資せんとす者あるに至つては沙汰の限りである

政府の議員任期延長策は、國策情勢の逼迫しつゝある今日に於て、國内に小紛糾たりとも釀すことありとせば、國民の協力体制にひびか入り、引いては他國の侮をも受ける怖れある爲、臣道實踐の國民体勢を整へんとする目的にあることは言を俟たぬ。

中央、地方を問はず、苟くも政治の樞軸に參加する議員は他に垂範するの行爲に立つべきであつて、任期延長に至つた趣旨を探究御奉公の念を愈々堅持するの覺悟が望ましい

文藝

綜合雜誌を見ても大部分は事勿れ主義の野心も情熱も押へつけられてしまつたやうな作品が多い

（達三）

年賀狀

（中）

藤原廣

……若き日の！さうだ、私の顏には霜がかゝり、皮膚の色は衰へて今では誰れも若いなどとはいつてくれない、そのかはり若い先生がスタイルの好い洋服を作つたり、色谷い好い帽子をかぶつて來たりするのを見ても別に羨やましくは思はなくなつた。自分の洋服の色はどんなにさめても娘の洋服の好いものを購つてやりたいし、自分の帽子の形がどんなにくづれても晩にうまい酒を多く飲めばそれで好くなつた、矢張お年をお召しになつたわけなのだらう、しかしあの頃はまだ私も若かつたそして燃ゆるやうな熱を持つて教壇に立つてゐた、園田たみ子！さうだ彼女はその頃の教へ兒の一人だつた。たみ子はせいのすらりとした髪の黑い色の白い少女だつた、しからば美人かといへばさうはいへなかつた、いやもしも彼女が强度の近視眼でなかつたなら或は美人だつたかも知れない不孝にも彼女は强度の近視眼のため、いつも高いせいを前こごみにしておど〳〵と歩いてゐた、そして決して正視しなかつた。だから色も白く髪も美しかつたにもかゝはらず容姿はあまりひきたたなかつた、その頃は今と違つて女學生が眼鏡をかけることは極度に彼女たちにきらはれてゐた

そのために近視眼の生徒でもいくら先生が眼鏡を用ゐなさいといつても用ゐやうとはしなかつた、彼女たちが三年生の時、私は自分の數學の時間にいつも前の方にゐても問題を間違へる彼女たちを叱りつけて無强に私の時間だけは眼鏡をつけさせるやうにしたしかし私の時間がすんでしまふと眼鏡をサツクへ入れて矢張不自由な眼をして廊下を歩いてゐた。おまけにたみ子は讀書が好きだつた、本を眼から一寸位の所に近づけて小さい六號活字の本など迄もよんでゐた。だから近視の度は進む一方だつた。それでゐてピンポンをやつてゐるのだから實に妙だつた。私が通りかゝつて『あなた玉が見えますか』といふと淋し氣に笑つてゐた

短歌

其日其時

七十六叟　磐陽

（三）蘭印より歸りし女婿エスを訪ひて

國の爲　重き使ひの　あしどりに　立てしいさをの　きかまほしけれ

幾月を　眞日やく國に　使して　歸る皇國は　雪ぞ　ふりつゝ

油湧く　島々めぐる　男の子やも　いさをしのせて　船は歸れる

（四）義甥エツチ一時に二つの博士號を獲てければ

世にまれと　諸手をあげて　たたふらん　博士二つの　君の譽を

充ち足りし　君の譽は　いやましぬ　工學博士　醫學博士に

名に高き　家に光を　さし添へて　博士二つに　映はえし君はも

連續講談　異說赤穗浪士

〔101〕

桃川若燕　畫城本喬

珍妙湯治場踊

併し七助はもう駄目だ、どうにもならないから變な顏をしてゐる。すると右門は大勢に向ひ、

『さて各々を御招待し別段にこれと云つて趣向もござらん就いては御酒の肴として此頃箱根で流行致す湯治場踊りといふ俗に湯上り踊りをお目にかけまうと思ふが如何でござらう』

右門の言葉に座にゐる連中手を打つて

『イヤ、それは一興でござらう、是非拜見したいものだ』

『然らばこれから御覽に入れる』

と立ち上つて裸体になり、手拭を片手に、片足を揚げ二三度ぐる〳〵と廻つた。

『猿橋氏、夫れでお終ひか、詰らぬものだな、ナア西野氏』

『如何にも、何の變哲もないアレでも踊りかな』

『嘘を云へ、お前の身体付では踊りは上手らしい』

『困りますよ』

『猿橋氏、七助も裸体にするのか——』

『裸体にしなければ本當の踊りは出來ない』

一同で嫌がる七助を裸体にしてしまつた、七助も仕方なく、泣き出しさうな顏をして手拭を片手にフラ〳〵踊つた見てゐた一同、手を打つて囃し立てながら、七助のからだを見ると、肝心なものが梅毒にかゝつたやうになつてゐるから並ゐる連中が妙な顏をした、間もなく酒宴は打開き一同はゾロ〳〵歸つて行く。その翌日例の通り若侍連中が集まると、

『オア小川、昨日のを見たか

『見たとも、あれでは噂も本當ではないぞ』

『アレは嘘だな、猿橋もそいつを知つてゐるから妻の居間へまで安心して出入さしたのであらう、これからも然うだが滅多な口は利けぬな、喋つた上でそれが本當でないとしたら切腹でもせねば申譯が立たぬからな』

口惡い連中も、それからといふものの猿橋の妻の不義を口にしなくなつた、と一と月程經つて右門は突然若黨七助に金十兩を與へて暇を取らしまた半月程經つて妻のむらを離別した、それで初めて右門の思慮のあるに氣付いたから家中の面々。

『猿橋と云ふ人物は見掛けによぬ思慮の深い男だな』

『ウム我々が彼れの人物を今迄のやうに評してゐたのは誤りであつた』

と今更ながら後悔した。これを耳にしたのが、例の千坂兵部猿橋右門を招いて京地に於ける間者として大石の動靜を探ぐり且つ浪士の有樣を密報する大役を委ねた。承つて猿橋右門は大枚の金子を懷中にすると、直ちに京に上り、遊興に名をかりて大石に近づいて行く、猿橋の行動でそれと察した大石は、貝賀に申付けると共に自らは今迄に輪をかけた大盡遊び今日も今日とて痛く醉つた千鳥足で山科街道を我家に歸つて來た、

『ウーイ、ア、今戻つたぞ』

と内藏之助の聲に玄關に出迎へる妻のよし。

おでんとヤキトリ　田町末廣　トナリ　一柳

おでんたつた揚やきとり　一平　平市一丁目

新時代の要求

附屬事業に等外看護婦を特設いたし皆樣の御用向へ身元確實なる婦人を派出致します、

平市南町　電三〇七　平看護婦會　會長　清野キヨ

經濟的な御便宜御用命をお願ひ致します

御手不足の御家庭　輕い御病人の付添　姙婦産婦の御家庭

國民精神總動員

日本國民必見の書……

內閣情報部發行

寫眞週報

一部十錢

お取次致しても居ります

平二　西村屋藥局　電三

木炭不足を補ふ黃金燃素

木炭一俵（四貫匁）用僅かに拾五錢にて松炭やボヤ炭又は煉炭タドン豆炭にても火附き能く堅炭同樣火力は二倍以上にて且つ永持ち致しますから御德用です

油のシミでも垢でも揉まず落る垢トール

毛織物、作業服、木綿物、絹物、スフ、人絹等のよごれを浸すだけで揉み洗ひの必要なく十分間にて生地を傷めず又絶体縮まずフツクラと新品同樣に洗濯が出來ます毛髮、蟲、夏帽子、皿、丼等の油あかも綺麗に落ちます右一度御試用を願上ます

一袋　貳拾錢　一箱　五拾錢

平市四丁目角　菅野屋商店　電話一五七番

【販賣店募集】

肉の御用命は　三三屋　牛も豚も優良品の自慢

「貯蓄は無盡で」　三行圓　一歩一歩貯蓄の山　社交高級しかも安価　うちぬからぬうちの今のうち　無盡の利益大　磐城無盡

味の種

醬油、鰹節、砂糖の經濟

極く少量の〝味の種〟を御使用になれば七分搗米や外米もフンワリ美味しく、榮養も高めて召上れます

△御飯を炊くとき米一升に對し小盃一杯

△其他和洋支あらゆる御料理に適宜に用ひると特有の味を生じます【二合瓶七十錢、四合瓶一圓三十錢、一升瓶三圓】

榮養調味　代理店　白菊酒店　平市田町【電話五四番】

謹告

今回其筋の慫慂と各業者新体制下に即應して市內六タクシーを合同致し營業所を平驛前元昭和タクシーに設置致し營業開始仕り候

從つて今後は一切當營業所以外に於てはタクシーの御用命は申受けざる事と相成り候倍舊の御引立御願申上候

昭和十六年一月十日

有限會社　平合同タクシー　電話三四三番

御得意樣各位

メガネ專門の店

メガネは絶對信用ある當店に先づ御相談下さい……

平市本町二丁目　玉屋

▲男女車掌募集

平市四丁目　鈴木自動車部　電話二一七番

大衆向きの小口保險

三百圓より大口契約も

板谷生命保險株式會社

小名濱代理店　比佐政種

好條件で外交員募る

平四倉　復往券2割引40錢

▽新舞子　約二丁
▽仁井田浦　約二丁
▽四倉海岸　約一丁
▽波立藥師　約八丁
▽鰐ヶ淵　約八丁

團体は特に御相談に應じます

合名會社　電話五四九　平四倉乘合自動車

▽募集

夫婦者　月給百圓　五十オマデ

但シ仕事ハ枕ヲ作ル【特點・一戸ヲ貸與ス家賃不要素人モスグ覺エル】

女中（台所希望者ミシン希望者）各二名　十五才以上

店員……五名　十五才以上

【月給・年期・前貸モ可・女中ハ夜間裁縫・店員ハ青年學校ヘ通學ヲ許可ス】

希望者ハ御照會乞フ

フトン袋　各種枕　卸商　東京市淺草區東三筋町六　富士屋商店　藤澤二郎

三宅驛（東武）　賛育（青山）　ピマーチ　五十錠入一、一〇　百錠入二、〇〇　徳用罐五、〇〇　美味しいビタミンのもとり

特約店　平市五丁目　山野邊藥局

トンカツ　こんかつ專門の店　平市仲田町　かの家　電話四六五番　出前は迅速にお つとめ致します

耳鼻咽喉科專門　レントゲン科　平驛前　電三三六　高柳醫院　醫學博士　高柳博明

外科主任　副院長　高橋俊幸氏　醫學博士　ナリシモ今回全治、二月一日ヨリ再ビ診療ニ從事ス、

內科、小兒科、レントゲン科、物理的療法科　院長　鈴木定藏

內藏一般外科　副院長　高橋俊幸

皮膚泌尿器科　藥劑師　部長　吉本幸平

毎日午前八時より午後九時まで夜間診療に應じます

急患は此の限りにあらず

平病院（元共濟病院跡）（電話四一番）　院長　醫學博士　鈴木定藏

ほねつぎ專門　四倉仲町（村田下駄店裏）　押田整骨院　電話（呼）一三四番

入院隨時　根本産婦人科醫院　平市南町　電話三四番　根本莊次郎　根本貞雄

警察官異動

平署長渡部、白井次席榮轉

縣警察部厚生課長横山宗延氏の福島商工會入りと郡山署長山崎秋氏の同市兵事課長就任に伴ふ本縣警察官五十六名の大異動は二十七日發表された、新任の久和平署長、同澁木次席は江邊知事の初巡視に間に合ふやう今廿八日午後二時五十分着列車で單身着任渡邊署長と事務引續きを進めるスピード振りである

警察官異動（平關係）

平警察署長　警視　渡部勇吉
補郡山警察署長
警防課長　警部　久和建一
任地方警視（七等）
補平警察署長
平署（次席）警部　白井保壽
命田島警察所長
特高課勤務　警部　澁木治紀
命平署勤務（次席）
高田警察署　巡査部長　岩下博
命平警察勤務
平警察巡査　根本增美
任巡査部長

新警視久和署長は警察官の古參

警防課長時代の手腕に期待

警視に昇進して平警察署長に新任の久和健一氏は石川郡澤田村出身で石川中學卒業、大正四年巡査拜命で本縣警察官の古參株、生家の久和家は地方に知られた豪農、先年故人となつた實兄唯一氏は村長その他の要職をつとめた人である、拜命以來の主なる經歷は富岡、植田、中村の各署長、警防課長としての事績はまことに多い、平警察署には巡査部長時代に勤務してゐる家庭にきよ子夫人（四）との間に儲けた二男三女あり長男武夫君（三）は陸軍の依託生で興亞工學院在學中、二男三男君（一）は福島驛員、長女ふみ子さん（八）は福島高女四年生、二女壽子さん（四）は同一年生、三女英子さんは今年學齢を迎へたところである

惜まれる渡部署長

白井次席は順調な榮進

郡山署長に榮轉の渡部勇吉氏は硬軟兩面を備へた名署長で業界から氣受けがよく僅か滿一ケ年の任期で去られるのを惜まれてゐる、柴田署長時代から懸案だつた地方新聞統制を完結したことは大きい業績である、次席警部白井保續氏は昭和十四年一月着任以來滿二ケ年、本田、柴田、渡邊と三代の署長を補佐し、功績に報いられて田島署長に榮轉順調な動きである

慰問袋献納

第二校生徒の純情

平第二小學校高等科一學年四組各期級長柴田佳代子、高木日佐子、安藤桂子さんの三名は二十七日慰問袋三個を市役所通じて陸軍省へ献納した

揚繰網の海上喧嘩

漁組の斡旋で無條件手打

四倉町字仲町長谷川西次郎氏所有揚繰網漁船不動丸と小名濱町中坪比佐政種氏所有揚繰網漁船開運丸が去る十九日夕般刻双葉郡廣野町沖合の海上で漁場區域から大亂闘をなした事件は平檢事局で取調を進めてゐるが其後小名濱、四倉濱の兩漁業組合が仲裁に入り白紙を以て圓滿解決した

四倉港昨年度魚獲高

縣案の二百萬圓突破

四倉濱漁業協同組合では昨二十七日午前十一時から新町實踐女子青年學校に於て昭和十五年度優良漁船並に優良船主船長等の表彰式を擧行した、十五年度に於ける總漁獲高は昨年の百六十三萬圓を遙かに突破して一躍二百二萬八千五百八十五圓九十七錢に達し四倉港縣案の二百萬圓漁獲が實現するに至つた、昭和十五年度漁獲高の季節別及入賞者左の如し

◇春職　△揚繰網三統三十一萬二千百七十二圓
△機船底曳網（七隻）八萬三千百八十一圓
△小型延縄船（十一隻）五萬四千八十八圓
◇夏職　△揚繰網、二統八萬五百七十五圓
△鮑其他、二萬九千百八十八圓
◇秋職　揚繰網（八統）百十八萬二千二百七十五圓
△機船底曳網（一隻）二萬七千七百九十三圓
△落網、一統二萬七千七百九十三圓
△傳馬船、（百三十隻）九萬百八十六圓
△廻船及委託七千八百三十七圓
△秋刀魚流網（三隻）六萬三千百二十一圓
△底曳網、一等龜鶴丸二萬二千七百六十一圓
△機船底曳網、一等海福丸、二萬二千百六十一圓
△小型延網、一等海福丸、八千九百四十二圓
船主、猪方房吉、船長、額賀留吉
◇夏職　△揚繰網、一等第一稲荷丸、四萬五千六百二十六圓
船主、菅波末吉、船長鈴木德太郎
◇秋職　△揚繰網、一等二十一萬一千九十四圓
不動丸、船主、長谷川酉次郎、船長、佐藤慶之助

優良漁船

船主船長表彰

◇春職　△揚繰網、一等金比羅丸十一萬三千百四十一圓
船主、鈴木賢二、船長、榊原源之助
△底曳網、一等龜鶴丸二萬三千百七十一圓
船主、田中菊太郎、船長、長谷川清次
△小型延網、一等海福丸、八千九百四十二圓
船主、猪方房吉、船長、額賀留吉
△揚繰網、一等金比羅丸十一萬三千百四十一圓
船主、鈴木賢二、船長、榊原源之助
△底曳網、一等龜鶴丸二萬三千百七十一圓
船主、田中菊太郎、船長、長谷川清次
△小型延網、一等海福丸、八千九百四十二圓
船主、猪方房吉、船長、額賀留吉

精勤漁夫表彰

△第一稲荷丸德本寅松　鈴木常吉　東ケ崎實　坂本俊正△御靜丸船員田中米吉　福原實　小野萬次郎　吉野五郎吉　吉田德次郎△稲荷丸船員鈴木貞次郎△福嘉丸船員新井清△朝日丸船員大和田勝太郎　久保木榮　本間竹四郎　神田德一郎　板垣松太郎△善寶寺丸船員渡邊敏夫　宇都宮清巳　佐藤喜一

濱三郡下同業者の木炭供出督勵

縣の增産奬勵策を指導

△管内木炭生産狀況△集荷又は供出事務取扱に關し改正希望意見△木炭資材並に製炭運搬に必要なる物資器具の不足に據る減産又は滯貨の狀況（地下足袋、軍手、綿布、ゴム長靴ガソリン等）△督勵員と囑託員の聯絡並に應援△木炭報國挺身競技會參加

濱三郡木炭同業組合政府供出督勵員打合會は二十八日午前十一時から業者約十九名が出席、縣から遠藤山林課主事が臨席、木炭集荷に付き次の議案を附議した

舊正賞與を献金

鈴木自動車從業員

平市四丁目鈴木自動部從業員多田松雄君外十一名は舊正月に貰つたボーナスの一部を醵金十圓を時局下國防費へと平署を通じ献金した

稀代の詐欺漢横山久

舊惡の泥を吐く

他人の土地を我物顔で賣る

（既報）詐取した金を返濟すると巧みに喰ひ入り元の被害者を說き伏せ宮城刑務所から出所以來數千圓を騙取して平署員に捕はれた平市仲間町詐欺前科一犯横山久（三九）は引續き平署で余罪追究中の處、入監前に於ける詐欺犯行二件を自供した

草野村生れ大連市黃金町小島滿氏所有田畑山林約五町歩を同村居住小島の母キクに同村新妻國藏等と共謀して去る十四年十二月同土地を抵當に某金融會社から七千二百圓を騙取し更に横山はこの以前十三年九月保釋出所中すつかり小島に成り濟し同樣田畑山林を抵當に某金貸から二千五百圓を詐取した

横山の取調べはこれで一段落を告げたものらしく近く送局されるものと見られてゐる

舊正二日の火災

三棟半燒失

滿二ケ年の無火災も煙り

二十八日午前一時五十分頃平市鍛冶町寫眞業宮田佐久間（四〇）方から發火、隣家の高根澤秀雄、青柳テル方を全燒、更に印刷業酒井政助方を半燒して同二時四十分頃二棟三戸を燒き鎭火した、損害約一萬圓に上る見込、原因は炬燵の殘火らしく目下平署で取調べ中だが舊正月二日の眞夜中頃の火災で人家密集してゐた市街地だけに一時は大騷ぎを演じた、無風狀態だつたのが不幸中の幸であつた

平市は昭和十四年一月二日研町の風呂やが燒けた火災以來滿二ケ年無火災を誇つてゐた程火災が尠なかつたのに市民から殘念がられてゐる

火災の原因は

取灰不始末

火元の夫婦重輕傷負ふ

別項、平市鍛冶町の火災原因を平署で取調べの結果カマドの取灰を近くの木屑に落したるとと判明、同家の長男辰馬（三四）妻ミヤ（四）の兩名は二階で就寢中、火の手が早く來た爲め逃げおくれ二階から飛び降り更に家財を取出そうとして辰馬は頭部、胸部、手足に全治一ケ月の重傷、妻ミヤは頭部胸部に火傷を負ふた

四倉信組總會

四倉町信用購買販賣利用組合第二十回通常總會は三十日午後一時より同町小學校内に開く

五十嵐博士の盜難外套

四倉町に捨てらる

平市新川町醫師五十嵐雄二氏は去る二十四日夕方自宅から時價三百圓の二重マフシを窃取され平署で犯人捜査中の處二十六日午前六時半頃四倉町字館下地内の藪の中に捨てられてあるのを通行中の四倉町青沼さんは盛岡に八年も在住されたとか云ふので、當時の政界や財界に詳しく、盛岡時代の追憶談は縷々としつきざるものがあつた、特に感心したのは健康法である、六十何才になるまで毎朝必ず水をかぶつてゐたと云ふのだから偉いものだ、それが盛岡のやうな寒い處でも繼續して水をかぶつてゐたので、水をかぶる毎に頭のあたりはすぐ氷つたといふことだ、當時は幾分お年も若かつたらうが、平氣でやつてゐたと云ふのだから全く驚かされた、「今の若い者は意氣地がない」と云はれても全く一言もない

步漫の者記入素

青沼市長の印象

矍鑠たる元氣に意を强める

稻水生

（2）

平に來て青沼市長の姿を始めて見たのは、磐中、磐女の學級增加に依る寄附金案上程の市會開會中であつた、七十幾才と聞いてゐたのでさぞかしお年寄りかと想像してゐたのに市長席におさまつた市長さんは案に相違して颯爽たる（？）姿で聲もハツキリしてゐた、越えて二十二日公會堂でお目にかゝつた時は矢張り相當なお年だなあと思つた、二十四日午前中市長室でお目にかゝつた時は再び矢張り矍鑠たるものだと思つた、この位の元氣がなければ市長は勤まらんだらうと思つた、唯だ話しをしてゐると發音に不明瞭な點のあるのに氣づいた

◇

市政のむづかしい話はこちらがわからんのだから一番無難な平安會のお話しを伺ふ

平安會は明治三十、八、九年の頃當時舊藩主安藤信篤子が磐城中學校を卒へて名古屋の高校に入つてゐたので舊藩士が一致團結してその學資金を援助し、かねて藩主と親睦をはかるのが目的であつた、松ケ岡公園の銅像も平安會が主になつてやつた仕事である、信篤子は不幸學半で病氣のため夭折され、嗣子がなかつたので現子爵安藤信昭氏が大正四年、現翼賛會事務總長有馬子爵家から入つて後を嗣がれた

◇

現在平安會員は約二百名毎年百名位集つて舊七月十三日良善寺に於て戊辰の役で戰死した藩士四十七名の追善供養をやつてゐる、平城の落城は七月十一日なのだがお寺の都合で十三日行つてゐるのである、現子爵も時々當地に來られて出席するが、財政上當地にお屋敷のないは殘念である、お城山も今から考へると公園地帶にしておけばよかつたと思はれるが、今の公園を作る時でさへ當時として骨の折れたことであり城山の土地は私有地なのだからどうにもならなかつた

火災御見舞御禮

今曉近火の際は逸早く御駈付消火に御盡力被下御蔭を以て類燒を免かれ候段難有御禮申上候、一々拜趨御禮申上ぐる筈に候處混雜中御尊名御伺漏れも可有之以紙上御厚禮申上候

昭和十六年一月廿八日
平市鍛冶町
朝日新聞平通信部
千輝克己

近火御見舞御禮

今曉近火の際は逸早く御駈付消火に御盡力被下御蔭を以て類燒を免かれ候段難有御禮申上候、一々拜趨御禮申上ぐる筈に候處混雜中御尊名御伺漏れも可有之以紙上御厚禮申上候

昭和十六年一月二十八日
平市鍛冶町
萩原義雄

近火御見舞御禮

郡山無盡株式會社出張所
主任　淺野英男

近火御見舞御禮

三國屋印刷所
高野政久

近火御見舞御禮

今曉近火の際は逸早く御駈付消火に御盡力被下御蔭樣にて類燒を免かれ候段難有御禮申上候、一々拜趨御禮申上筈に候處混雜中御尊名御伺もれも有之べく紙上を以て厚く御禮申上候

昭和十六年一月廿八日
平市鍛冶町
井尻雅國商店

近火御見舞御禮

今曉近火の際は逸早く御駈つけ消火に御盡力被下御蔭樣にて類燒を免かれ候段難有御禮申上候、一々拜趨御禮申上筈に候處混雜中御尊名御伺もれも有之べく紙上を以て厚く御禮申上候

昭和十六年一月廿八日
平市鍛冶町
草野央

近火御見舞御禮

今曉近火の際は逸早く御駈付消火に御盡力被下御蔭樣にて類燒を免かれ候段難有御禮申上候、一々拜趨御禮申上筈に候處混雜中御尊名御伺もれも有之べく紙上を以て厚く御禮申上候

昭和十六年一月廿八日
平市鍛冶町
後藤桂仙

近火御見舞御禮

今曉近火の際は逸早く御駈付消火に御盡力被下御蔭樣にて類燒を免かれ候段難有御禮申上候、一々拜趨御禮申上筈に候處混雜中御尊名御伺漏れも可有之以紙上御厚禮申上候

昭和十六年一月廿八日
平市鍛冶町
朝日新聞平通信部
千輝克己

故陸軍伍長太田和平儀市葬の際は御多用中に不拘御鄭重なる御香典を賜り且つ遠路會御葬被下奉深謝候一々拜趨御禮可申上儀に候處以紙上厚く御禮申上度如斯御座候

昭和十六年一月二十八日
平市久保町二十三番地
喪主　太田正三
外親戚一同

鳩尾加壓器（きつあかちおづみ）
鳩尾を落すこと
胃腸は丈夫に動脈硬化が來ぐ
一、鳩尾を落すことは千古を貫く保健の祕訣です、
一、使つた其日からこれは効くぞと判るのが特徴です
【說明書實驗例無代進呈】
製造元　東京　林健體會本部
頒布所　平市古鍛冶町一〇
阿康藥局
電話四四番

磐城セメント小賣指定
大谷石を賣始めました
野内商會
平市南町
電話一一番

市葬に感激

銃後會寄附

太田伍長の弟正三君去る二十五日市葬を執行した故太田和平伍長の實弟平市久保町太田正三君は二十八日市兵事課を訪れ『戰病死の身でありながら市葬執行して下すつたことは誠に申し譯がない地下の兄和平も喜ぶことでせう』と感激して市銃後會へ二十圓寄附した

献金

小名濱町小湊小野寅次郎氏の母堂小野タケさんは本廿八日役場に到り金五十圓を銃後奉公會金二十圓を國防婦人會に寄附した

◇小名濱町小湊小野次郎助氏三男大三郎氏の入營記念として銃後奉公會へ金五十圓寄附を申し出た

揚繰船漁の新体制

休漁五日間に短縮

小名濱の網繰底曳等一般魚船は舊正月四日迄休漁五日より本格的の漁を始める、從來は七日に出初め式をやり、十五日頃迄休漁してゐたもので今回の五日よりの出漁は新体制に則つたものといふべきである

舊正　水曜　新一月
丁丑　先負　廿九日
三月　建　赦宿　日

▲一白　始めの吉なるに反して功果左程に揚らぬ日
▲二黑　穩和に物事を處理すれば失策を招く事なし
▲三碧　血氣に任せて進む時は成る事も遂げがたし
▲四綠　半途に迷ひを生じ有耶無耶に歸する事多し
▲五黃　殺氣立ちて事を誤り易き日飲食に注意あれ
▲六白　勞苦を厭はず奮勵すれば希望達成の喜あり
▲七赤　遇くとも成らんとを專一とし勵む時は吉
▲八白　人の爲に苦を增し迷惑する事あり控ゆべし
▲九紫　遠き道も一歩より達す焦まず進め書類注意

今晩　南の風晴れ一時曇り
明日　南の風後北西の風晴れ勝時々曇るでせう